



# 凡事徹底

当たり前のことを当たり前

蕨市立第二中学校  
学校だより  
平成30年度  
第10号(12月末号)

## オリンピック選手からのメッセージ

校長 荒川 順一

- ◎2014年 第17回アジア競技会(韓国・仁川)  
2位 記録84m42
- ◎2016年 オリンピック出場  
(ブラジル・リオデジャネイロ)
- ◎自己ベスト 86m83(2014年 長崎国体  
日本歴代2位の記録)

これは、陸上競技のやり投げで、オリンピックに出場するなど、現在活躍されている新井 涼平選手の記録の一端です。

11月28日(水)、本校2年生対象に、新井選手による授業が行われました。埼玉県教育委員会の「東京2020オリンピック・パラリンピックに係る小中学校向け競技体験」事業で、申し込みをしたところ、幸運なことに採用されたのです。当日は、5時間目にグラウンドでやり投げの競技説明、デモンストレーション、体験会を、6時間目には体育館で講演をしていただきました。

### 「目標を持って、それに向かって努力することが大事」

これは、新井選手からのメッセージです。講演の中で、何度も熱く生徒に語っておられました。

新井選手は、埼玉県皆野の出身。長瀨中学校、そして皆野高等学校をご卒業。中学時代は野球部に所属。野球部では、目標を定めて活動しなかったため、何となく3年間を過ごしてしまい、後悔されていたりっしやるようでした。しかし、高校1年のときに人

生を変えることになる出会いが…。2007年世界選手権のテレビ中継で、テロ・ピトカマキのやり投げの競技を見て感動し、「これをやってみたい」と、強い思いを抱いたそうです。2学期に、今まで所属していた部活動を退部し、陸上競技部に入部。トップアスリートとしては、極端に遅い競技スタートです。しかし、実現可能な目標を設定することにより、自ら積極的に練習に取り組み、実力を確実に向上させ



今に至ったというお話をしていただきました。

あと少して、2018年が終わり、新たな年を迎えます。生徒には、年の始まりにあたり、現在の自分の実力に合った、達成に向け努力できる目標を設定し、新井選手のように確実に実力を向上させていくって欲しいと願っています。

### 生徒に、やり投げ競技を説明する新井選手

#### 保護者の皆様へ

本校の教育活動にご理解・ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

2019年も、教職員一丸となって、「凡事徹底」の目標のもと、教育活動に努めて参りますので、よろしくお願いたします。

皆様、よいお年をお迎えください。

#### 《学校教育目標》

- 自ら学び、深く考える生徒 (知)
- 心豊かで、思いやりのある生徒 (徳)
- たくましく、健やかな生徒 (体)

#### 蕨市立第二中学校

電話：048-443-2670 FAX：048-443-2671

URL：http://warabi2.com/

e-mail：warabi-2@warabi.ne.jp

## 学年主任から2学期を振り返って

### 1 学年主任 田中 明恵

年の瀬も近づき、学校もまとめの時期に入りました。1学年はスキー体験学習という大きな行事を3学期に残していますが、子供たちは、初めての体育祭や蕨二祭にも全力で取り組み、充実した2学期を過ごしたと思います。行事や部活動では、先輩方から学ぶことも大きかったと思います。合唱の練習では、2年生や3年生の歌を昼休みに聴きにいたり、先輩たちが朝練で声出しをしている場面を見て真似したり、クラスで練習計画を独自に立てている実行委員もいました。行事に臨む姿勢はとて立派で、生徒たちが主体的に考えて行動する場面がたくさん見られました。うまくいわずに悩んだり、ぶつかったりするときもありましたが、担任の先生の助言を受けたりして自分たちの力で取組を成功に導いていました。

毎日の生活の中では、中学校生活の「慣れ」はときに気のゆるみや怠惰につながり、集団としての価値を落とし自分を見失ってしまう原因になります。やるべきことをやらない、「みんな」やってないからいいや、の「みんな」の中にはどれくらいの人が含まれるのでしょうか。「みんな」ではなく、「自分は」何をしなければならないのかを考えていかなければならないときです。人と比べるのではなく、自分としてどうであったか、自分として納得、満足できるものがあつたかを振り返ってみましょう。

冬休みはこの一年を振り返り、3学期に新たな目標をもって登校してくれることを期待しています。そして、学年最大行事であるスキー体験学習を成功させましょう。

### 2 学年主任 山岸 真

生徒会活動や委員会活動、また部活動など3年生からのバトンを引き継いで、学校の中心となって活動するようになりました。学年の生徒は、何事にも前向きで積極的で中学校2年生特有の中だるみは、それほど感じることなく、頑張るときは頑張ることができた学期であったと思います。特に体育祭や合唱祭などの行事には各クラスが一丸となって取り組み、来年度がますます楽しみな仕上がりになりました。本気になって練習しているからこそ感じられる、喜びや悔しさなどを味わうことは、今後の人生の糧になると信じています。

また、そんな中、集団の中では、頑張ることはできたとしても、自分の事となると逃げてしまう生徒がいるのも事実です。普段の授業の取組が一番大切です。授業をしていると、教科書が机の上に出ていない生徒や、忘れ物の多い生徒、提出物などの課題を期限までに出せない生徒がまだまだいます。

日頃の家庭学習を定着できていない生徒もいます。常に何かの言い訳を考えて逃げ回することは簡単ですが、自分自身の将来のことを考え、日々努力していかなければなりません。まもなく3年生をむかえる準備である来学期が勝負です。



継  
続  
力  
を  
は  
り

### 3 学年主任 遠藤 和彦

ALL OUT(すべて全力で)を見せてくれた二学期。体育祭や蕨二祭では、実行委員やクラスのリーダーが中心となってクラスが1つにまとまり、この学年の本気に感動しました。学年合唱でも、さすが3年生という合唱を見ることができ、この学年の成長を感じることができました。1学期の修学旅行で培った思いやりの心や仲間とともに作り上げようとする連帯感や、日々の学校生活で培ってきた一つ一つのことに努力していく力を最大限に発揮することができ、学年集団として、また個人として更に大きく成長する素晴らしい行事となりました。

二大行事が終わった後、少しずつ進路に向けて気持ちを切り替えられるようになり、意欲的に授業に取り組む生徒が多くなりました。しかし、今の努力はまだまだALL OUTではありません。「これくらいいいや」という考えではなく、「これくらいまで頑張ろう」という目標設定と、それに向けた強い思いが大切です。みなさんは希望進路の実現に本気になっていませんか？人は、本気の思いを持ったときに初めて本気の努力ができます。努力ができていない人は、心が本気になっていないということです。なぜ、その進路を選択するのか。進路先では、どのような目標を持って学校生活を送っていくのか。今一度、自分の未来を真剣に考えてみてください。

みなさんが考えている以上に時間はありません。明日から冬休みとなりますが、ゆっくりと寝ている時間はありません。朝の1時間、2時間を無駄にしている人に明るい未来は見えてきません。日々の学校生活と同じ生活リズムで冬休みを過ごし、1分1秒を無駄にしないような学習をしていきましょう。

身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会 特選 篠宮一花(2年)

入選 土田喜久乃(3年) 加藤来実(3年) 勝木愛里(2年)

平成30年度埼玉県歯・口の健康に関する図面・ポスターコンクール 入賞 東愛乃(1年)

埼玉県バスケットボール協会 U14南部 A 地区選抜選手 細川皇雅(2年)

蕨市民ロードレース大会 (男子)1位 村上駿(1年)

(女子)1位 政所初音(2年) 3位 古川みらい(2年) 5位 飯塚結里衣(2年)

表 彰